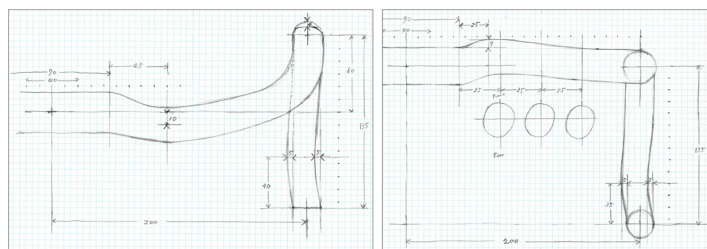


【ジェイカーボン マホラ&スエヒロ】

▶ 2008 年発売のワンバイエス“ジェイカーボン”ハンドルはシリーズ化され、その 10 年後に快適性を追求した“グランモンロー SL”の発表でひとつの区切りを迎えました。ジャパニーズをイメージしたこの“J=ジェイ”シリーズのハンドルは、2003 年からアルミモデルでスタートし (Vol.23 参照) 今日まで派生を含め約 30 種近くに増え、今も初期モデルを含め販売し続けております。「“グランモンロー SL”で区切り」と書きしたのは、今回の題材であるハンドル「マホラ」の設計へのアプローチが、今までのものと異なっているからです。それは機材や使用方法など変化する時代背景に依るところもあり、“多くの悩みの中から誕生したハンドル”と言っても過言ではなく、そのことは開発から発売に 2 年 3 ヶ月を費やしたことに表れています。

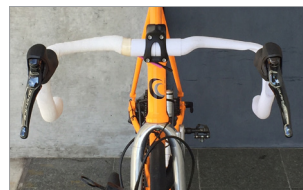
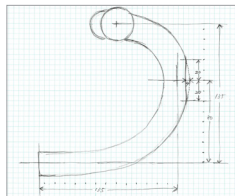
▶ 開発コンセプト…せっかくのカーボン、強弱=減り張り(メリハリ)のある走行での心地良さを追求したい…まずメリハリを意識しました。それは穏やかなリラックスモードと緊張感あるパワーモードの対比の中で、手に伝わる感触や握った時の力の入り具合などが其々に良いと感じられるモノであること。力を抜いている場面では勿論のことですが、辛くて必死な時にも心地のよし悪しはあるもの。肝心なのはしんどい場面で機材がどう応えて(助けて)くれるのか。これはハンドルに限らず、フレームなど含め多くの自転車機材に当てはまる開発テーマです。しんどい場面に到達するまでの距離や時間を延ばしてくれるとか、しんどさを早く和らげてくれる、というのがあります。

▶ マホラ&マホラスエヒロには、“このような意図を誰もが自然に感じられるようにする”ということを最大のテーマとした設計アプローチを行いました。(以下より写真とともに要所を説明していきます)



▲最初の手書き図面です。

ポイントはトップに傾斜を付けて手前に曲げてから送り出しドロップで絞る。寸法は最終的に必ず辻褄を合わせる。リーチは短い 60mm で想定ステムを 90mm 以上としコントロール性を高める。トップで鳥が羽ばたくようにソフトに、やや深めのドロップでの強い引きに耐える剛性を持つことでした。



▲最初の手書き図面を元にできた 3D モデルを仮付けたもの。2 年前、ある程度はこの時点の様になっていましたが、色々悩みが発生していきます。ちなみにこのフロントフォークはワンバイエス「OBS-RBD1.25TH」(Vol.14 参照) の開発途中のアルミ無垢を削り出して作った試作フロントフォークです。



▲ステム付近を変える決意をしました(茶色い粘土部分)。無理してイカリ型を取らずにステムクランプから面一で傾斜をかけ下側とスムーズに扁平化してシヨルダーに向かわせる。右写真のように人差し指の絡みやサプレバーなどの装着を容易にさせるように前部のステムとの面一ラインを伸ばしました。悩みの産物が快適につながった部分です。



◀ これもかなりの悩みの原因であったケーブル類の扱い。当初(2 年前)はエンドとステム付近 2 点のみの穴で電気ケーブルを収める設計でした。ブレーキは外回しです。勿論外回しを好む方も多いのは承知していますが、その後の流れを見据え、敢えて内装に拘ることになり 4 つ穴とし、最終的には 7 つ穴となった次第です。



◀ 開発から 1 年経過し、トップ部分の設計が 3D でテストで実感として腑に落ち始めたところで、応用編のフレアモデルを考えました。3D モデルは摂氏 60 度以上の湯で曲げることができ、とても熱いですが素手で曲げてイメージを出します。どこから曲げるかまた難しいところです。



◀ フレアモデルの開発も半年経過した何回目かの 3D モデルです。基本モデルからドロップは 30mm も浅く 105mm とし、気持ちのいいフレア角度 27° に共用のトップ部分から曲げ始めています。ドロップ部分のサイド面を少し削いだ設計への効果は特にフレアモデルで威力を発揮し、よりハンドルに荷重しやすくなっています。

▶ 開発から 2 年経過してようやくカーボン材でのサンプルができました。実際のケーブル用穴の大きさや形状などをカーボン型自体を変更するというリスクを迫いながらも実行。カーボン技術の躍進によって、軽量かつ意図する強度を維持しながら穴の形状を設計できます。



◀ オンもオフもいろいろな場面での実走を重ねます。テスト実走の基本はバーテープを巻かずに素手で乗ること。まずこれが非常に大事です。複雑な形状による感触と剛性強度の確認は勿論のことですが、ケーブル穴入り口が手にどう影響するかなども含め、この段階からも黙々と変更を行います。



▲ 最終段階になるとロゴやバーテープの巻き方などの表面的な詰めとなり、このように色々楽しめることがわかって来ます。特にトップ部分の形状が素手でなんとも言えず気持ち良いので、そんなに走りで追い込まないのであれば巻かない、という選択肢もあります。



「マホラ」は“まほろば”のこと。素晴らしい日本の風土を感じて欲しいという思いを造形にも宿しています。「マホラスエヒロ」は“末広がり”…広くすべてのフィールドを愉しむ…との思いから。トップ部分の快適感触からシヨルダーに向かって脇を広げやすく呼吸を助け、ブラケットではフィットゾーン効果もありコントロールしやすくなっています。マホラのドロップはしっかり“気合い入れて行こー!”ですが、スエヒロのドロップはワクワク“楽しんで行こー!”なのです。

東京サンエス総合カタログ

～ UNIVERSAL CATALOG/VOL.28 ～

11 月中に完成いたします。以下の方法にて入手頂けます。

● カタログ配布販売店 (tsss.co.jp) にて 11 月 20 日頃掲載予定)

○ 氏名・住所をご明記、84 円切手 5 枚を同封の上、当社宛にお送り下さい。(〒110-0005 台東区上野 3-7-1「カタログ係」)

事前申込をされた方へは概ね 11 月末頃にお届けできる予定です。



ViVA は今回お休みです。次回 Vol.30 は 2020 年 12 月 11 日(金)の配信予定です。